



## ミニム中学生・香港派遣 報告書

報告者 団長 村上 幸生

- 1 派遣先 香港
- 2 派遣期間 令和6年12月25日(水)～12月30日(月)
- 3 宿泊先 リーガルリバーサイドホテル (Regal Riverside Hotel)
- 4 練習場 Po Leung Kuk Riverain Primary School
- 5 出場大会 **Asian Cadet Fencing Challenge 2024**  
・試合会場 Po Leung Kuk Riverain Primary School  
Address: 28 On Chun Street, Ma On Shan, Shatin, N.T.



(Po Leung Kuk Riverain Primary School)

6 派遣コーチ・選手名簿（全国中学生フェンシング選手権大会上位入賞者）

種 目	氏 名	役 職	所 属
引 率	村上 幸生	団長／MFコーチ	ジュニアフェンシング大分
	斉藤 三枝子	WFコーチ	柿の木台スケルマ
	大柴 光朗	WSコーチ	京都フューチャーフェンシングクラブ
	江村 宏二	MSコーチ	エクストリームスポーツ株式会社
	佐伯 悠	MEコーチ	沼田フェンシングクラブ
	岩橋 恵美	事務／WEコーチ	ワセダクラブ
	石上 由香里	通 訊	添乗員
女子フルーレ	熊本 詩乃	選 手	大山崎中学校
	周 知愛	選 手	NEXUS FENCING CLUB
	後藤 結衣	選 手	はしまモアフェンシングクラブ
	伊藤 舞	選 手	秋田市ジュニアフェンサーズ
	石津 愛美	選 手	三島フェンシングクラブ
	石川 愛瑚	選 手	ジュニアフェンシング大分
	浜田 あい	選 手	大穴フェンシングクラブ
	山畑 花乃子	選 手	高松北中学校
男子フルーレ	幸田 朋優	選 手	法政大学第二中学校
	米山 怜旺	選 手	大垣クラブ
	飯村 要	選 手	龍谷大学付属平安中学校・高等学校
	山下 翔生	選 手	はしまモアフェンシングクラブ
	平墳 葵温	選 手	大垣クラブ
	島村 大翔	選 手	八王子フェンシングクラブ
	田代 圭	選 手	NEXUS FENCING CLUB
	高橋 麗人	選 手	スターフェンシングアカデミー
女子エペ	羽石 祐丹	選 手	ダウントウンフェンシングアカデミー
	篠島 果穂	選 手	埼玉エスクリム
	小野塚 生	選 手	いわきFC
	森村玲音那	選 手	ダウントウンフェンシングアカデミー
男子エペ	石田 英優	選 手	柿の木台スケルマ
	日浦 維吹	選 手	総武FC
	田島 健裕	選 手	大阪読売千里クラブ
	高井 秀	選 手	YAMAGUCHIジュニアアスリートアカデミー
女子サーブル	伴 優月	選 手	立命館中学校
	星川 もみじ	選 手	三島フェンシングクラブ
	宇都宮 玲奈	選 手	愛媛フェンシングクラブ
男子サーブル	小林 慶一郎	選 手	アスクラロフェンシングアカデミー
	長嶋 翼	選 手	エスコピオス学園海星中学校
	畠山 海威	選 手	SEISA
	中尾 斐斗	選 手	NEXUS FENCING CLUB



## 8 試合結果

### U17女子フルール(11名)

名 前	順位
周 知愛	1
熊本 詩乃	2
石川 愛瑚	3
山畑 花乃子	3
後藤 結衣	5
石津 愛美	6
伊藤 舞	7
浜田 あい	8

### U17男子フルール(15名)

名 前	順位
田代 圭	1
幸田 朋優	3
平墳 葵温	3
山下 翔生	6
飯村 要	7
米山 怜旺	9
島村 大翔	12
高橋 麗人	1回戦棄権

### U17女子エペ(6名)

名 前	順位
羽石 祐丹	1
小野塚 生	2
篠島 果穂	3
森村玲音那	3

### U17男子エペ(14名)

名 前	順位
石田 英優	1
日浦 維吹	5
田島 健裕	8
高井 秀	14

### U17女子サーブル(14名)

名 前	順位
宇都宮 玲奈	2
星川 もみじ	3
伴 優月	8

### U17男子サーブル(17名)

名 前	順位
長嶋 翼	2
畠山 海威	3
小林 慶一郎	4
中尾 斐斗	7

## 9 遠征の報告(12月24日～29日)

### 12月24日

21時に東横イン羽田空港2ロビーにて、コーチ陣および添乗員による遠征の打ち合わせを実施し、各種別の担当コーチを決定、確認後、遠征の詳細な計画を確認した。

### 12月25日

早朝5時にホテルを出発し、6時に第二ターミナル国際線出発ロビーに集合とし、予定通りチェックインを完了した。

香港空港到着後は荷物を受け取り、バスでホテルへ移動した。チェックインまで時間があつたため、移動途中にレストランで昼食を済ませた後、練習会場を視察し、夕方 5 時半にホテルのチェックインを完了した。

夕食は昼食が遅かつたこともあり、ホテル近辺のスーパーやコンビニで購入し、各選手が自室で食事を済ませた。一方、コーチ陣と添乗員は、この遠征を企画してくれた香港の WongTan 氏と共に、翌日からのキャンプについて食事をしながら打ち合わせを行なつた。

## 12 月 26 日

午前 8 時にホテルロビーに集合し、バスで練習会場へ移動した。今回のキャンプには、日本、香港、マレーシア、中国、シンガポールの選手が参加。練習開始前に、参加者全員を集め、WongTan 氏からキャンプの趣旨や練習内容について説明があつた。

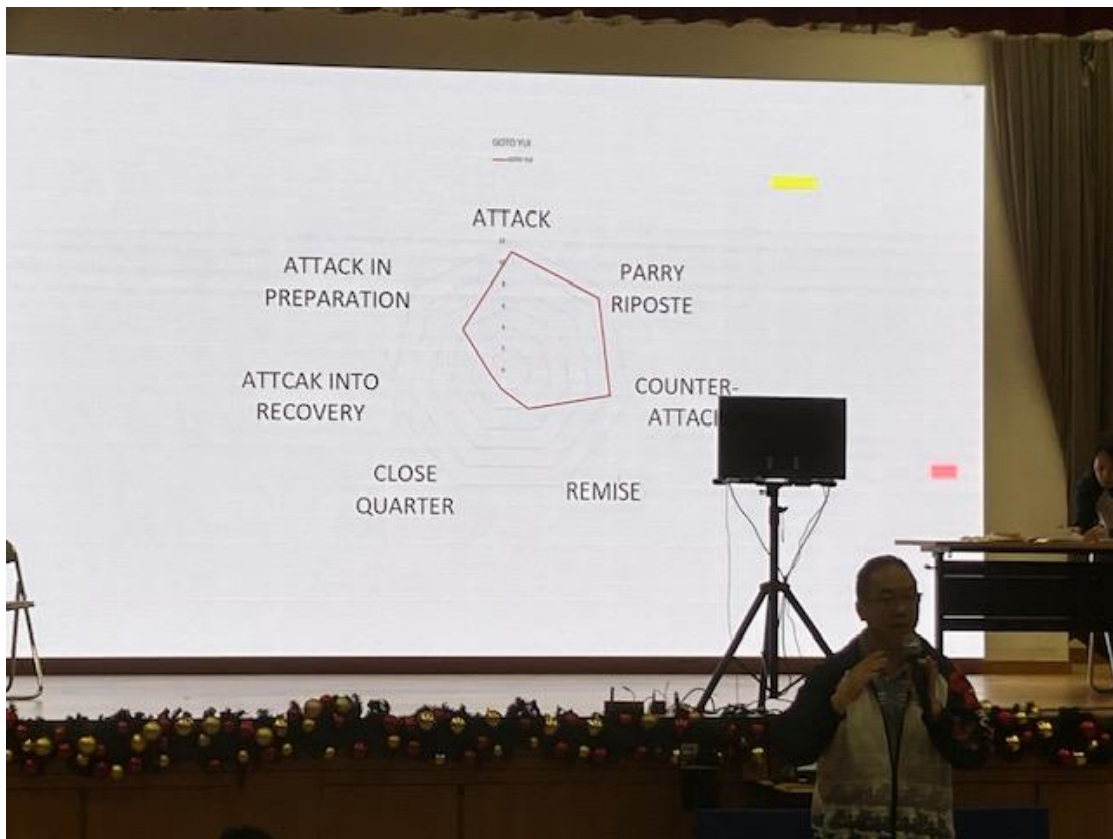
練習場所は種目ごとに分かれており、フルーレは 0 階、サーブルは 1 階、エペは 4 階の会場で行われた。初日の練習では、選手たちを男女 7~8 名のグループに分け、グループ内での対戦を実施。その際、自分がどのようにしてポイントを取つたのかを記録する「チェックシート」を使用した。この取り組みは、各選手の戦術などを振り返り、改善点を見出す助けとなる有意義なものとなつた。

### ○チェックシート

Name	_____	Foil / Epee / Sabre	_____	Country	_____		
Date	_____						
English	Attack	Parry Riposte	Counter-attack	Remise; Renewed attack	Close quarters	Attack into recovery	Attack in preparation
中文	進攻	防守還擊	反攻	延續進攻	近戰	跟進進攻	搶攻
日本語	アタック	パレ・リポスト	コントロールアタック	ルミーズ	接近戦	パレからのアタック	プレパラクションからの攻撃

## 12 月 27 日

キャンプ 2 日目は前日と同じ時間にホテルを出発し、練習会場に到着し、練習開始前に、前日に記録したチェックシートを基に各選手に分析表が配布され、WongTan 氏より分析結果の説明が行われた。選手たちは自分の課題や強みを把握し、その後の練習に活かすことができた。



午前中の練習では、「開始戦 4m エリアでのファイティング」が行われ、選手たちはオフェンスとディフェンスに分かれ、一本ごとのファイティングを実施。慣れてきた後は、10 本勝負形式でオフェンスとディフェンスを交互に切り替えながら進行した。

午後の練習では、通常距離で一本ごとに号令をかけて「残り 10 秒 スコア 1-0 の状況」を再現したファイティングを行なった。この練習では、選手たちに以下のようなアドバイスを行なった。

- ポイントを取るためには事前に行動を決め、迷わず実行することが重要である。
- リードしている側は時間を稼ぐ際、一度前に出てフェイントを加えるなど、間合いを変化させつつ後退し、時間を有効活用すること。

選手たちは状況ごとの戦術を実践しながら、集中して取り組んだ。

サーブルにおいては、フルーレやエペと違って斬るが中心の種目なので、下がりながらのディフェンス動作やオフェンスに入る細かい準備動作、また、繰り返し動作のスピードとバランスを中心に行なった。中国の男子選手は高身長でスピードもあることから日本選手にとって良い練習となった。

12月28日

キャンプ3日目は男女別に3~4名のチームに分け、団体戦を実施した。団体戦ならではのプレッシャーや戦術の駆け引きが選手たちを刺激し、練習は非常に盛り上がりを見せた。選手たちは互いに声をかけ合いながら、試合の中で戦略を練る楽しさと難しさを実感することができた。他にも団体戦をとおして海外の選手たちとのコミュニケーションを図ることができた。



フルーレ練習会場 0階



サーブル練習会場 1階



エペ練習会場 4階



団体戦



集合写真

## 12月29日 試合日

当日は試合開始が午後からということもあり、午前 10 時 15 分にロビーへ集合し、バスで試合会場へ移動した。試合開始は午後 1 時過ぎだったため、先に昼食を取り、試合開始 1 時間前からアップなど準備を行い、試合に臨んだ。

今回の試合では、参加国や参加人数が少なかったこともあり、ほとんどの種目で日本人選手が上位を独占する結果となった。この結果は、選手たちの日頃の努力と集中力の賜物であり、誇らしい成果となった。

## 10 所感

新型コロナウイルス感染症の影響が収束し、5年ぶりに中学生の海外遠征を実施することができた。今回のキャンプおよび試合は、参加者の半数以上が初めての海外遠征の経験となり、



試合だけではなく海外選手とのコミュニケーションを図る場としても有意義な海外遠征となった。

選手の中にはストレッチローラーなどの道具を持参し、アップやケアに対する高い意識を持った選手もいた。同レベルのライバルが集うファイティングでは、選手たちが非常に楽しそうに取り組んでおり、このような環境が国内でも定期的に提供されれば、さらなるレベルアップと意識向上に繋がると実感した。今回のキャンプで得た練習方法や経験を活かし、選手たちが今後一層成長することを期待している。

また、香港の WongTan 氏には、ホテルやバスの手配に加え、急な選手の体調不良にも迅速に対応していただいた。他にも、選手たちが食べやすい昼食メニューを準備していただき、選手全員から非常に好評であった。練習や日常生活が快適に送れる環境を整えてくださったことに心から感謝している。参加国や参加人数は少なかったものの、細やかな配慮のおかげで全員が充実した遠征を終えることができた。

今回の遠征が成功裡に終わったのは、多くの関係者の皆様や助成金などにより実現したものであり、毎年実施できるよう引き続きご支援とご協力をお願い申し上げます。

以上